



山登りした時に、見晴らしの良い山頂で、地面から四角い石が出ているのを見つけたことがあるよ！

それは、三角点というものじゃ。明治時代につくられた三角点も多くあり、一等三角点から四等三角点まで、日本全国に約11万点もあるのだ！



「三角点」とは

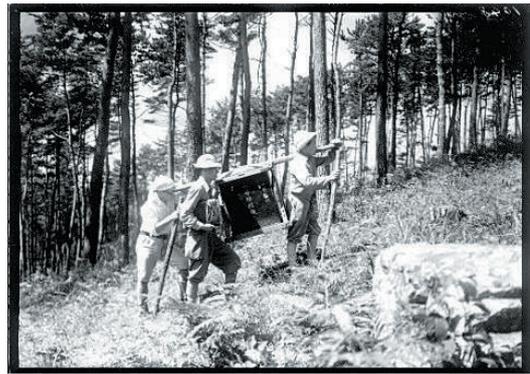
明治時代に日本全国の正確な地図をつくるためには、地上に基準となる三角点を約4km間隔に設置して正確な位置（緯度と経度）を測量する必要がありました。

これには、高い山に70kgを超える三角点と測量用の望遠鏡、水、食料などを担ぎ上げ、何日も泊まり込んで正確な測量を行いました。

このような大変な苦勞の末に、大正時代までに日本国内の正確な5万分の1地形図が、ほぼ完成しました。



数十 km も離れた場所から測量するために三角点の上に設置された目標物（測標）



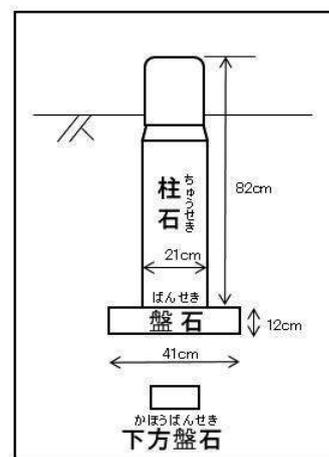
精密な測量機材を担ぎ上げる様子（昭和初期）

三角点の地図記号は、「△」です。

ハイキングや散歩の時に、三角点を見つけてみてはいかがでしょうか！



一等三角点



一等三角点構造図

（測地部）